

## 「ART for Wellbeing プロジェクト」の始動 ～文化・芸術活動の進化～

損害保険ジャパン株式会社（取締役社長：西澤敬二、以下「損保ジャパン」）は「Innovation for Wellbeing」の実現に向けて、アートの力を活用する「ART for Wellbeing プロジェクト」を始動します。

### 1. 取組みの背景・目的

損保ジャパンは戦前から陶芸家・北大路魯山人や画家・東郷青児など数多くの芸術家への支援に始まり、1976年の美術館の開館、ゴッホの《ひまわり》の購入・展示、人形劇場「ひまわりホール」（損保ジャパン名古屋ビル）などの運営を通じて、文化・芸術活動を継続的に支援するとともに文化・芸術を身近に感じる機会の提供に取り組んできました。このたび、これまでの活動の軌跡を踏まえ、ブランドスローガンである「Innovation for Wellbeing」の実現に向け、アートの力を活用する「ART for Wellbeing プロジェクト」を始動します。

### 2. 「ART for Wellbeing プロジェクト」の概要

損保ジャパンがこれまで長く取り組んできた、①アートで「つながる」②アートを「支える」活動を基盤とし、さらに③アートを「活かす」活動を展開することで、文化・芸術活動を通じた「Innovation for wellbeing」の取組みを加速するプロジェクトです。



### 3. 具体的な取組み

#### (1) アートで「つながる」

SOMPO美術館を活用した対話による鑑賞会、防災人形劇の上演、文化庁のバーチャル日本博への出展など、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を活用した世界への情報発信や、SOMPOケア株式会社が保有する介護施設へのデジタルサイネージ配備を通じた美術鑑賞の機会提供など、文化芸術活動を通じて幅広いステークホルダーとの絆を強める活動です。

#### (2) アートを「ささえる」

地方自治体との包括連携協定等に基づくSOMPO美術館收藏の東郷青児作品などの地方美術館への貸出、SOMPO美術館で開催する公募展「FACE展」※1による新進作家の支援など、地域における文化振興ならびに文化芸術活動の担い手を育成・サポートする活動を行います。

※1 「FACE展」とは新進作家の登竜門として、2013年に創設された公募コンクールです。

#### (3) アートを「活かす」**NEW**

これまで展開してきた文化・芸術活動を「ヒト」「モノ」「コト」の観点から見直し「活かす」ことで、新たな価値創造ストーリーにつなげていく活動です。これらのアイデアには、社内副業制度「SOMPOクエスト」※2に応募した役職員有志のメンバー発案のものも含まれています。

※2 現所属部署の業務を行いながら、数日間～数か月単位で他部署業務にも携わることができる社内制度です。



SOMPOクエストメンバーも参加しての「ART for Wellbeing プロジェクト」ブレスト

## ① 「STEAM 教育」※<sup>3</sup>の実践

VUCA 時代のビジネスパーソンには、論理（サイエンス）だけでなく、美意識や感性（アート）思考を磨くこと、すなわち、「STEAM 教育」が重要だと言われています。本プロジェクトでは、損保ジャパンの社員に最も身近なゴッホの<<ひまわり>>にまつわるエピソードなどを動画や音声プラットフォーム「VOICY」などのツールを用いて、理解を深めるなど、全役職員約 25,000 人の感性をアートで刺激し、新たな価値創造につなげる各種プログラムを展開していきます。

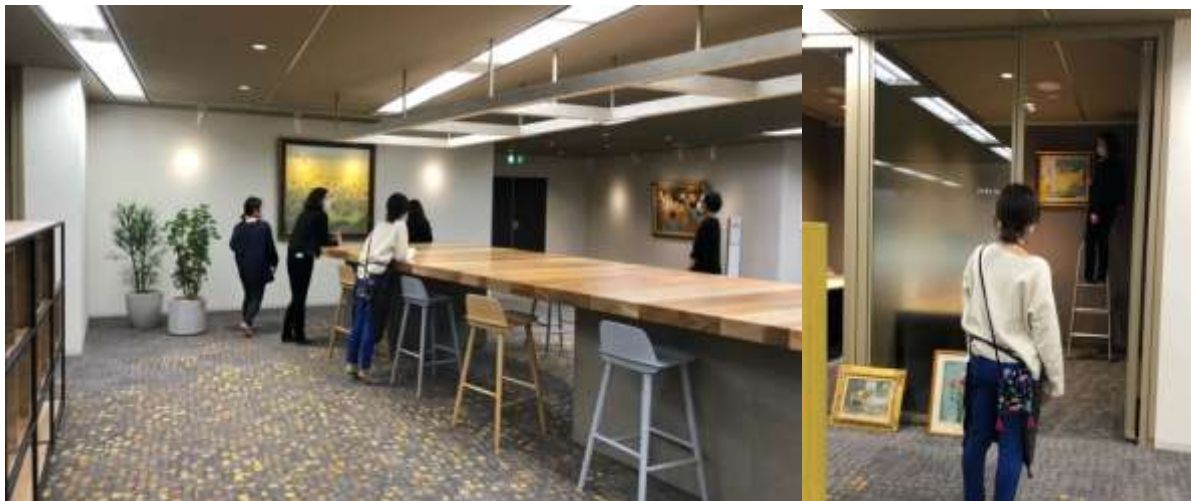
※3 Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学・ものづくり）、Art（芸術・リベラルアーツ）、Mathematics（数学）の頭文字からなる造語。

## ② 「コワーキングスペース」のオープン

2022年1月、損保ジャパン本社ビルにコワーキングスペース「SOMPO つながるアトリエ」をオープンしました。オフィス空間に損保ジャパンが所蔵するアート作品を配置し、オフィスでアートに触れる機会を提供することで、アートとビジネスの融合によるイノベーションの可能性、人の才能や努力への敬意、他者との感性の違いなどの気づきをもたらすなど、ダイバーシティ&インクルージョンを体感する場所を提供します。



アート作品は、社内副業制度「SOMPOクエスト」メンバーが選定し、作品に選定理由を添えて掲載しています。



### ③アートの力を活かした「情報発信」

損保ジャパンではこれまでも、社会的課題を自分事としてとらえ、課題解決に取り組むことを目的として「The Action! ～SDGs カードゲーム～」や「防災ジャパンダプログラム」など、アート思考を活用し、直観的に理解できる各種コンテンツを開発・提供するなど、アートの力を情報発信に活かしてきました。今後も引き続き、「アジアで唯一、ゴッホの《ひまわり》がある美術館を持つ企業」として、さまざまな情報発信の場においてアートの力を活用していきます。

## 4. 今後について

損保ジャパンは、本プロジェクトを通じて「”安心・安全・健康のテーマパーク”により、あらゆる人が自分らしい人生を健康で豊かに楽しむことのできる社会を実現する」という「SOMPOのパーパス」実現に向けて、新たな社会価値創造を加速していきます。

以上